

全国演劇鑑賞会連絡会

代表 高橋武比古 殿

公開質問状

日本演劇発展のため日々のご尽力に敬意を表します。

さて、昨年来私が貴会に提起している差別発言事件について質問致します。

2012年7月20日代々木オリンピックセンターにおいて開催されたシンポジウムにおいて、私は貴会福岡市民劇場事務局長川述文男氏に質問致しました。その内容は、岸貝（岸和田・貝塚）事務局長有馬勇氏が私のひとり芝居『しのだづま考』について「四つの女の話やろう」と発言されたが、その言葉と演劇鑑賞会の理念（日本演劇の民主的発展）はいかなる整合性があるのかというものでした。その場で有馬氏は立ちあがり件の発言について「そういう発言をした記憶がある」と認めておられます。

翌々日、日本青年館で開催された貴会研究集会の席上で私は、再度貴会に対して有馬氏の発言についての貴会の「理念」との整合性を質問し、真摯なご論議をお願いいたしました。その時の貴殿のご回答は「近畿ブロックでよく論議していただき、今後の活動に生かしていただきたい。」というものでした。

超えて2013年5月3日、日本青年館で開催された貴会第20回研究集会二日目の席上で私は発言を求めました。「昨年、関西の事務局長から発せられた「四つの女の話やろう」との発言と貴会の「理念」との整合性についてお答え戴きたい」と申し上げました。私は議長より「全国演鑑連からの回答を求められますか？」と質問を受けましたので「はい」と応えましたそれに続く全国演鑑連を代表する貴殿のご回答は、「中西さんの発言はこの（全国演劇鑑賞）会に対する侮辱だと思います。」というものでした。

そこで質問致します。

- 1 貴殿は2012年7月22日研究集会の「まとめ」で先述のように「近畿ブロックでよく論議していただき、今後の活動に生かしていただきたい。」と発言されましたが、貴会代表者として貴殿は、有馬氏が「そのような発言をした記憶がある」と確認されたことを覚えておいですか。
- 2 その発言を認識されているのであれば、有馬氏の「四つの女の話やろう」という発言と貴会の理念「日本演劇の民主的発展」との整合性をお答えください。
- 3 本年5月3日、演劇鑑賞会の理念と有馬氏の「四つの女の話やろう」発言の整合性について質問した私に対して「侮辱」と回答された全国演鑑連代表としての貴殿の論拠をお答えください。

回答は本年10月25日まで文書でお寄せ下さい。

敬具。

2013年10月16日

〒104-0045 東京都中央区築地1-4-8-1002

京楽座 代表 中西和久